

大学等名	山口学芸大学
プログラム名	データ科学と社会

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ 修了要件

「データ科学と社会Ⅰ」(1単位)及び「データ科学と社会Ⅱ」(1単位)を取得すること。

必要最低科目数・単位数

2 科目

2 単位

履修必須の有無

令和9年度までに履修必須とする計画

④ 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-6	授業科目	単位数	必須	1-1	1-6
データ科学と社会Ⅰ	1	○		○					
データ科学と社会Ⅱ	1	○	○	○					

⑤ 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-2	1-3	授業科目	単位数	必須	1-2	1-3
データ科学と社会Ⅱ	1	○	○	○					

⑥ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-4	1-5	授業科目	単位数	必須	1-4	1-5
データ科学と社会Ⅰ	1	○	○	○					
データ科学と社会Ⅱ	1	○	○	○					

⑦ 「活用にあたっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	3-1	3-2	授業科目	単位数	必須	3-1	3-2
データ科学と社会Ⅱ	1	○	○	○					

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データ科学と社会 I	1	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「データ科学と社会Ⅱ」(2回目) ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データ科学と社会Ⅱ」(1回目～2回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・AI最新技術の活用例(生成AI)「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーションなど)「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・基盤モデル「データ科学と社会Ⅰ」(3回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・データ作成(ビッグデータとアノテーション)「データ科学と社会Ⅱ」(1回目～2回目) ・データのオープン化(オープンデータ)「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ「データ科学と社会Ⅱ」(1回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「データ科学と社会Ⅱ」(1回目) ・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「データ科学と社会Ⅱ」(6回目～7回目)
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・データ解析: 予測、グルーピング「データ科学と社会Ⅱ」(2回目) ・データ可視化: 複合グラフ、関係性の可視化「データ科学と社会Ⅰ」(6回目～8回目) ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データ科学と社会Ⅰ」(3回目) ・非構造化データ処理: 言語処理、画像/動画処理、音声/音楽処理など「データ科学と社会Ⅰ」(2回目) ・認識技術、ルールベース、自動化技術「データ科学と社会Ⅱ」(2回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「データ科学と社会Ⅰ」(3回目)、「データ科学と社会Ⅱ」(6回目～7回目) ・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工)「データ科学と社会Ⅱ」(6回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断)「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・データバイアス、アルゴリズムバイアス「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・AIサービスの責任論「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・データガバナンス「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・データ・AI活用における負の事例紹介「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目) ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生成・氾濫など)「データ科学と社会Ⅱ」(4回目～5回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「データ科学と社会Ⅱ」(3回目) ・匿名加工情報、暗号化と復号、パスワード、悪意ある情報搾取「データ科学と社会Ⅱ」(3回目) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データ科学と社会Ⅱ」(3回目)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類(量的変数、質的変数)「データ科学と社会Ⅰ」(4回目～5回目) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～6回目) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～6回目) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～6回目) ・相関と因果「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～6回目) ・クロス集計表「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～6回目) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「データ科学と社会Ⅰ」(4回目～6回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～8回目) ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～8回目) ・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～8回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計(和、平均)「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～8回目) ・データの並び替え、ランキング「データ科学と社会Ⅰ」(5回目～8回目) ・データ解析ツール(スプレッドシート)「データ科学と社会Ⅰ」(4回目～8回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンス・AIの概要とそれを学ぶ意義について理解し、説明できる。 ・データサイエンス・AIの基礎となるデータリテラシーを身に付ける。 ・データ・AIの利活用において留意すべきことを理解し、実践できる。 ・データサイエンス・AIの応用に関する技術や最新動向について学び、説明できる。
--

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和6年度(和暦)

②大学等全体の男女別学生数
(令和6年5月1日時点)

男性 78人 女性 215人 (合計 293人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数												
教育学部・教育学科	293	70	300	39	38											39	13%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	293	70	300	39	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	13%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	13%	令和7年度予定	17%	令和8年度予定	40%
令和9年度予定	63%	令和10年度予定	77%	収容定員(名)	300

具体的な計画

文部科学省により、令和7年には全ての大学生等が「数理・データサイエンス・AI」について履修できるような環境を整備するとの方向性が示される中、教育学部の単科大学である本学では令和6年度からSPARC(地域活性化人材育成事業)の連携開設科目として、「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」の2科目を開設し、本プログラムを設定した。本プログラムを構成するこの2科目については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率については学年進行で全学生・100%となる計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は、教育学部教育学科の1学部1学科で構成されている。本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率は入学定員に対して全学生・100%となることから、今後、1学年70名が受講する上で適切な学修環境となるようクラス分割により構築する予定である。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率については学年進行で全学生・100%となる計画である。具体的な周知方法・取組として、学生ハンドブックに掲載するほか、入学時のオリエンテーションでの指導により、周知を徹底している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では学生部教務課内の2人の学部・学科支援員が、日常的に学部教務担当教員と連携し、他の教務課員とともに学生の個別相談に丁寧に応じ、履修指導や多様な手続き等の支援を行っている。

また、この2科目は連携開設科目であり、対面のみならず同時双方向での開講となることから、指導補助教職員やSAを配置する予定としている。

なお、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率については学年進行で全学生・100%となる計画である。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

対面授業の際には、授業中や授業後に随時口頭での質問を受け付けている。同時双方向のリモートによる形態での授業もあるため、本教育プログラムに係る授業はLMS上で管理しており、授業時間内外にかかわらず学習指導が可能となっている。また、シラバスには教員及び指導補助職員のメールアドレスを記載しており、授業時間内外にかかわらず質問を受け付けることが可能である。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

山口学芸大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会

(責任者名) 成富 敬

(役職名) 副学長・学生部長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本学学生部教務課では、教務システムを活用し、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」を含むすべての科目について、履修状況、出席状況、単位取得状況等を一元的に管理している。本システムを用いることで、学部長、学科主任、チューター教員、学部・学科支援室等の教職員は、これらの情報を随時把握でき、チューター教員は、必要に応じて学生に対して履修指導等を行っている。</p> <p>また、出席状況や単位修得に不安が見られる学生については、授業担当教員からの情報をもとに学部会議で情報共有を行い、学部全体で支援できる体制を整えている。</p> <p>なお、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率については学年進行で全学生・100%となる計画である。</p>
学修成果	<p>本学教務課では、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」を含むすべての科目について、単位取得率、成績分布の集計や、学生による授業アンケートを実施している。</p> <p>単位取得率は「データ科学と社会Ⅰ」で100%、「データ科学と社会Ⅱ」では97.4%と高く、成績分布についても、望ましい基準に達している以上の成績評価を取得した割合が、両科目とも95%を示しており、学修成果をあげていることが確認できる。</p> <p>また、授業アンケートでは、「シラバスに記載された講義の到達目標を達成したと思いますか?」や「この授業の内容を理解できましたか?」の項目により、到達目標の達成度や授業内容の学生の理解度が高いことを確認している。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学教務課では、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」を含むすべての科目について、学生による授業アンケートを実施している。本授業アンケートでは、「この授業の内容を理解できましたか?」、「シラバスに記載された講義の到達目標を達成したと思いますか?」、「この授業に対するあなたの興味・関心は高まりましたか?」、「この授業について満足しましたか?」など理解度や満足度について質問しているため、これらの結果により、学生の理解度、満足度の確認が可能である。</p> <p>令和6年度の授業アンケートの結果は、「理解できましたか?」について「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた割合が「データ科学と社会Ⅰ」では81.6%、「データ科学と社会Ⅱ」では91.7%と学生の内容の理解度が高いことがわかる。また、「到達目標の達成」では、Ⅰは83.7%、Ⅱは80.0%であったほか、「興味・関心の高まり」ではⅠは86.9%、Ⅱは83.3%、「満足度」はⅠは92.1%、Ⅱは86.1%といずれも高い割合であることから理解度・満足度の高さが見える。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本学教務課では、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」を含むすべての科目について、学生による授業アンケートを実施している。本授業アンケートのうち「この授業について満足しましたか?」という質問に対し、「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」の回答者の約9割が「そう思う」「ややそう思う」と回答しており、今後他の学生への推奨が期待できる。</p> <p>なお、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率については学年進行で全学生・100%となる計画である。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本学は、教育学部教育学科の1学部1学科で構成されている。本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」については、令和8年度入学生から全学卒業必修科目とすることが決まり、履修者数、履修率については学年進行で全学生・100%となる計画である。今後、1学年70名が受講する上で適切な学修環境となるようクラス分割により構築する予定である。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本学教育学部では、卒業後1年目の卒業生を対象とした「卒業生アンケート」、「就職先アンケート」を実施している。これは、卒業生の進路先での活躍状況、勤務先の評価を把握することで、教育改善の一助にするためである。本教育プログラムは、令和6年度入学生から開始したため、プログラム修了者はまだ卒業していない。卒業する令和10年度以降、「卒業生アンケート」、「就職先アンケート」によって把握する予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>「大学リーグやまぐち(地域連携プラットフォーム)」が実施した、高等教育機関における今後の人材育成に関して調査した「山口県の産業界が求める人材像」(県内企業221社)アンケートでは、「円滑な人間関係や主体性」や「課題設定・解決能力」、「論理的思考力」に加え「社会人としての幅広い知識・教養及びデジタルの基礎知識を備えた人材」が挙げられている。</p> <p>また、同プラットフォームが実施した山口県教育委員会へのヒアリング結果によれば、大学等が優先的に取り組んでほしい教育プログラムについて、「課題解決型の教育プログラム(PBL等)の充実」「IT・AIの基礎教育の推進」「文理の枠を超えた横断的な教育の充実」が挙げられていることから、今般申請を行う教育プログラムの内容・手法等が求められる人材養成に十分寄与するものと思料する。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>本学教務課では、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」を含むすべての科目について、学生による授業アンケートを実施している。本授業アンケートのうち「この授業に対するあなたの興味・関心は高まりましたか?」という質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」と回答した学生の割合は、「データ科学と社会Ⅰ」が87%、「データ科学と社会Ⅱ」が83%であり、学生の興味・関心の高まりを確認できる。</p> <p>また、本学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会では、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」の講義内容を確認・改善しており、当該講義内容について、モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事問題や現在のトレンドなど社会の実例をもとにAI等がどのように活用されているかを中心に学生の好奇心を促す講義内容になっていること。また、データリテラシーに関する演習では、産業界の事例としてインタビューや動画を見せたり、プログラミングに触れたりするなど、将来必要となる新しい知識を盛り込みながら、学生の理解が進むように配慮されていることを確認している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>本学教務課では、本教育プログラムを構成する「データ科学と社会Ⅰ」および「データ科学と社会Ⅱ」を含むすべての科目について、学生による授業アンケートを実施している。この学生による「授業アンケート」において、「この授業はわかりやすいように準備や工夫がされていましたか?」や「この授業の内容を理解できましたか?」、「この授業について満足しましたか?」など7項目の質問及び自由記述欄を設定して、集約された学生の意見を参考に講義の内容・実施方法の見直しを行っている。今後、「卒業生アンケート」や「就職先アンケート」により授業の到達目標が望ましいレベルに設定してあるか確認する予定である。</p>

講義概要

— 2024 —



山口学芸大学
Yamaguchi Gakugei University

授 業 科 目 名	データ科学と社会 I	教 員 名	木下 真 (単独)	免許・資格等 との関係	保 育 士											
					幼 稚 園 教 諭	選 択										
ナンバリングコード	CMI-1020-022201	年次配当	1 年前期		小 学 校 教 諭	選 択										
					中 学 校 教 諭 (英 語)	選 択										
授 業 形 態	講 義	授 業 科 目 の 取 扱 い	面 接 授 業 科 目	卒 業 要 件	高 等 学 校 教 諭 (英 語)	選 択										
					特 別 支 援 学 校 教 諭											
単 位 数	1				SPARC 教育プログラム	必 修 ③										
教 科 及 び 教 職 に 関 する 科 目	免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目 (幼稚園・小学校・中学校 (英語)・高等学校 (英語))															
各 科 目 に 含 め る こ と が 必 要 な 事 項	教養科目															
授 業 テ ー マ	データサイエンス、データリテラシー、ICT															
授 業 概 要	現代では ICT を用いた様々なサービスが生み出され、「超スマート社会」が現実になりつつある。この礎は、広範囲かつ目的に整合したデータの取得と、これらのデータをもとにした問題解決を行う科学的な方法論、すなわちデータサイエンスにある。 この授業では、社会の発展のためにデータサイエンスを学ぶ意義を理解するとともに、その基礎となるデータリテラシー (データを的確に理解し、解釈し、分析する能力) を身に付けることを目標とする。															
到 達 目 標	1. データサイエンスの概要とそれを学ぶ意義を理解する。															
	2. データサイエンスの基礎となるデータリテラシーを身に付ける。															
	3. 大学における学習に必要な基本的なツール (ネットワーク、パソコン、各種のソフトウェア (文書作成、表計算、プレゼンテーションのためのソフトウェアを含む)) の使い方を習得する。															
	4. 身近な情報源であるインターネットを用いて、データを検索・取得し、利用する方法を身に付ける															
学 修 成 果 と の 関 係	①	○	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	連携開設科目															
授 業 計 画						目 標	方 法									
	1.	オリエンテーション、学内 IT インフラの使用方法				1,3	面 接									
	2.	インターネットを利用したデータの検索と取得およびデータの管理				3,4	面 接									
	3.	データサイエンス講義				1	同 時 双 方 向									
	4.	データリテラシー演習①				2,3,4	面 接									
	5.	データリテラシー演習②				2,3,4	面 接									
	6.	データリテラシー演習③				2,3,4	面 接									
	7.	データリテラシー演習④				2,3,4	面 接									
8.	データリテラシー演習⑤				2,3,4	面 接										
ア ク テ ィ ブ ・ ラ ー ニ ン グ																
成 績 評 価 基 準	評価の方法：①レポート(70%)、②授業態度・授業への参加度 (30%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②授業態度・授業への参加度：授業に意欲的に参加し、演習に取り組むことができる。															
フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	対面もしくは LMS(Moodle)を通じて行う。															
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習・復習を行うこと(各回について予習 90 分・復習 90 分程度)。															
教 材 に か か わ る 情 報	テキスト：書名：学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー 著者：FOM 出版 出版社：富士通エフ・オー・エム株式会社 ISBN13： 9784865103434 参 考 書：特になし 参 考 資 料 等：特になし															
実 務 経 験 に つ い て																
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ 等	オンラインと対面で演習中心の授業を行います。授業には各自のノートパソコンを持参して下さい。 授業で用いる主にソフトは、Word と Excel です。事前にパソコンにインストールを行っておいてください。 なお、パソコンの OS は Windows でも Mac でも構いません (iPad、Android や ChromeOS を搭載したタブレットやスマートフォンは不可。)。ただし、メーカーのサポートが終了しているアプリケーションソフト (Word や Excel) や OS は利用できません。 Email：kdev@yamaguchi-u.ac.jp (木下) ：hkawamoto@y-gakugei.ac.jp (河本) ※SPARC 教育プログラム担当者															

授業科目名	データ科学と社会Ⅱ	教員名	木下 真 (単独)	免許・資格等 との関係	保育士											
					幼稚園教諭	選択										
ナンバリングコード	CMI-1021-022201	年次配当	1年前期		小学校教諭	選択										
					中学校教諭(英語)	選択										
授業形態	講義	授業科目の 取扱い	面接授業科目	卒業要件	高等学校教諭(英語)	選択										
					特別支援学校教諭											
単位数	1				SPARC教育プログラム	必修 ③										
教科及び教職に関する科目	免許法施行規則第66条の6に定める科目(幼稚園・小学校・中学校(英語)・高等学校(英語))															
各科目に含める ことが必要な事項	教養科目															
授業テーマ	データサイエンス、データリテラシー、ICT															
授業概要	現代ではICTを用いた様々なサービスが生み出され、「超スマート社会」が現実になりつつある。この礎は、広範囲かつ目的に整合したデータの取得と、これらのデータをもとにした問題解決を行う科学的な方法論、すなわちデータサイエンスにある。 この授業では、社会の発展のためにデータサイエンスを学ぶ意義を理解するとともに、その基礎となるデータリテラシー(データを的確に理解し、解釈し、分析する能力)を身に付けることを目標とする。															
到達目標	1. データサイエンスの概要とそれを学ぶ意義を理解する。 2. データサイエンスの基礎となるデータリテラシーを身に付ける。															
学修成果との関係	①	○	②	・	③	◎	④	・	⑤	・	⑥	・	⑦	・	⑧	・
履修条件・注意事項	連携開設科目															
授業計画						目標	方法									
	1. 情報の流通とデータサイエンス					1,2	面接									
	2. データサイエンスの基本技術					1	面接									
	3. 情報セキュリティ					2	面接									
	4. データ・AI 利活用の法規と倫理1					1,2	同時双方向									
	5. データ・AI 利活用の法規と倫理2					1,2	オンデマンド									
	6. 企業でのデータサイエンス活用例					1,2	同時双方向									
	7. 専攻分野におけるデータ活用研究例					1,2	面接									
8. まとめ					1,2	面接										
※2回目以降の授業の順番は、入れ替わることもある。その際は授業で事前に周知を行う。																
アクティブ・ラーニング																
成績評価基準	評価の方法：①レポート(70%)、②授業態度・授業への参加度(30%)により、総合的に評価する。 評価の基準：①知識・理解：授業で取り上げた理論や知識を扱った問題に解答できる。 ②授業態度・授業への参加度：授業に意欲的に参加し、演習に取り組むことができる。															
フィードバックの方法	課題(試験やレポート等)に対するフィードバックは対面もしくはMoodleを通じて行う。															
時間外の学習について	予習・復習を行うこと(各回について予習90分・復習90分程度)。															
教材にかかわる情報	テキスト：特になし 参考書：特になし 参考資料等：資料等は、Moodle上に準備する。授業の際に説明する。															
実務経験について																
担当者からのメッセージ等	ノートパソコンを持参してください。ただし、メーカー(MicrosoftやApple)のサポート期限が切れているバージョンのソフトやOSは利用できません。 Email:kdev@yamaguchi-u.ac.jp (木下) :hkawamoto@y-gakugei.ac.jp (河本) ※SPARC教育プログラム担当者															



大学等連携推進法人

[ホーム](#) > [大学等連携推進法人](#)

大学等連携推進方針

1. 大学を設置する社員の名称及びその法人が設置する大学名

国立大学法人山口大学（山口大学）、公立大学法人山口県立大学（山口県立大学）、学校法人宇部学園（山口学芸大学）

2. 参加大学の教育研究活動等に関する連携の推進を図る意義に関する事項

山口県の人口は昭和60年の160万人をピークに減少し続け、令和2年で134万人、今後30年で約100万人まで減少すると予想されている。近年のコロナ禍において東京一極集中に陰りがみられ、「札幌/仙台/広島/福岡」といった地方中核都市の人口増加が話題になっているものの、広島及び福岡に挟まれた山口県の県外流出は顕著で、15歳から29歳の若者が進学及び就職で県外に流出し、その中でも女性の流出が顕著で20歳から39歳の女性人口は全国平均をはるかに上回る勢いで減少しているため、出生率も低く人口減少に拍車をかける状態にある。

今後、AI化やIoT化などの技術はますます進化し、Society5.0の進展に合わせて、資源や物を主体とした資本集約型産業は縮小し、「知識を共有・集約することで、様々な社会課題を解決し、新たな価値を生み出そうとする知識集約型産業」の隆盛を迎えることが予想される。瀬戸内工業地帯を有する山口県では、この知識集約型産業へ転換を図り、若者が定着し活性化する新たな地域作りを進めていく必要がある。

山口大学、山口県立大学及び山口学芸大学の3大学は、山口市にキャンパスを有し、やまぐち未来創生人材育成・定着促進事業（COC+事業）の主要参加校であり、地域の抱える課題に対する深い共通認識がすでにでき上がっている。COC+事業終了後も、山口県と「大学リーグやまぐち(地域連携プラットフォーム)」を組織し、3大学を中心とした高等教育機関、行政、産業界などと広範囲なネットワークを形成し、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の県内定着促進並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の向上を目的として活動を行っている。これまでの活動を踏まえつつ、更なる地域貢献に資するため、令和4年12月に3大学による一般社団法人の設立に至った。

この法人は、山口県内の高等教育機関がそれぞれの強みや特色を活かし、人的・物的リソースを相互に補完することにより、教育研究機能の強化のための事業を連携して実施し、地域との共創によって、地域が求める人材育成や地域社会の振興と発展に寄与することを目的とするものである。

3. 参加大学における教育研究活動等に関する連携の内容及びその目標に関する事項

連携大学間のそれぞれの強みや特色、教育資源等を活かした相互補完などにより、教育内容や質の向上を図り、地域が求める人材の育成に取り組む。なお、当面は、SPARC事業（地域活性化人材育成事業）における次の活動を行う。

- SPARC教育プログラムにおける連携開設科目の開設・実施・評価
- DXによる地域課題解決に向けたPBLの実施・評価
- 高大接続の推進
- リカレント教育やリスキリング教育の推進

連携開設科目を開設及び実施する場合

● (1) 連携開設科目の開設の内容及び目標

ひとや地域（まち・文化・教育）のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成のため、文理横断教育、データサイエンス教育、知的財産教育、地域理解教育の充実を目標とし、各大学の強みを生かした連携開設科目を開設する。

連携開設科目の内容及び目標に関する協議は、理事会及び連携教育プログラム委員会において基本方針の協議を行う。また、授業担当教員レベルにおいても、連携教育プログラム委員会の下にタスクフォースチームを設置し、3大学間の協議を行う体制を整える。

【予定されている連携開設科目】

- DX概論（2単位）
- 地域学（2単位）
- データ科学と社会Ⅰ（1単位）
- データ科学と社会Ⅱ（1単位）
- 統計学概論（2単位）
- 人工知能概論（2単位）
- 知的財産入門（1単位）
- データ科学のための基礎数学（2単位）
- 地域文化論（2単位）
- デザイン思考論（2単位）
- コミュニティデザイン論（2単位）

● (2) 参加大学の役割分担

各大学の学位プログラムにおいて、それぞれ不足している教育内容に関し、各大学の強みや特色のある教育リソースを提供する役割を担うこととし、これを共通科目として配置することを前提として整備を行う。

山口大学では、データサイエンス教育及び知的財産教育など、山口県立大学では、地域理解教育など、山口学芸大学では文理横断教育における芸術分野の教育などを主に提供することで教育内容の向上を図る。

(共同教育課程を編成及び実施する場合)

該当なし

4. 一般社団法人が行う大学等連携推進業務に関する事項

本法人は、山口県内の高等教育機関がそれぞれの強みや特色を活かし、人的・物的リソースを相互に補完することにより、教育研究機能の強化のための事業を連携して実施し、地域との共創によって、地域が求める人材育成や地域社会の振興と発展に寄与することを目的とする。

現時点で推進を予定している業務については以下のとおり。

1. 教育研究機能の強化のための連携に関すること
2. 地域が求める人材育成に関すること
3. 地域社会の振興と発展に関すること
4. 学生及び教職員の交流に関すること
5. 効率的な大学運営に関すること
6. その他目的を達成するために必要なこと

(大学の設置者以外の社員がいる場合)

5. 大学の設置者以外の社員が実施する参加大学の教育研究活動等に関する連携の推進に関する事項

該当なし

一般社団法人 やまぐち共創大学コンソーシアム

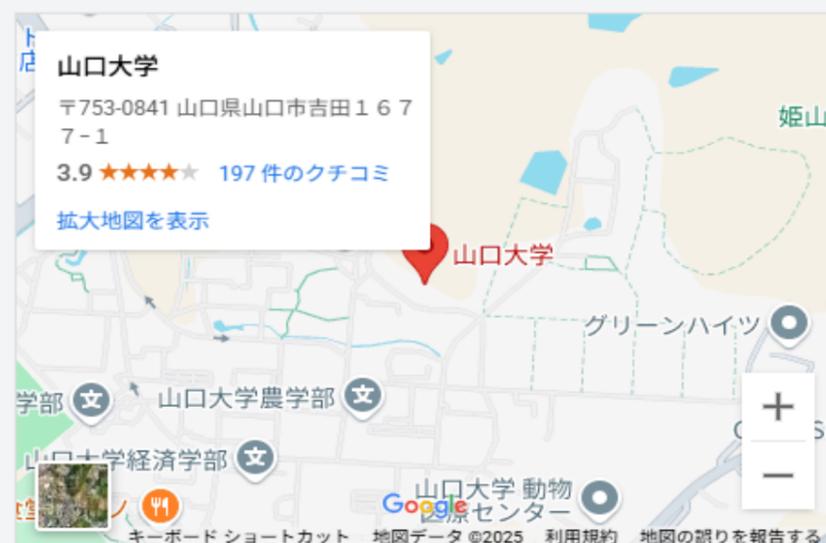
General Incorporated Association Consortium of Higher Education Institutions for Co-Creating Yamaguchi

[主たる事務所]

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1

(国立大学法人山口大学内)

電話番号：083-933-5956



[ホーム](#) [役員挨拶](#) [法人概要](#) [活動状況](#) [大学等連携推進法人](#)

2022 General Incorporated Association Consortium of Higher Education Institutions for Co-Creating Yamaguchi

教育学部教育学科(R6年度)		単位数	形態	卒業要件		開講期及び時間数												資格等取得要件 【●必修○選択】					担当教員
科目区分	授業科目の名称			必修	選択	1年		2年		3年		4年		保育士	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援	S P A R C			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
教養科目	日本国憲法	2	講	2	2	2	2												香川				
	心理学	2	講	2	2	2	2												田邊				
	哲学	2	講	2	2	2	2												岡村				
	文学	2	講	2	2			2	2										森野				
	郷土史	2	講	2	2		2	2											河合				
	情報処理	2	演	*1	2	*1	2	2	2				○	○	○	○	○			成富			
	データ科学とプログラミング	2	講	2	2						2	2								成富・長			
	暮らしのなかの科学	2	講	2	2					2	2									開地・山田			
	日本語コミュニケーション	2	演	2	2	2	2													上田			
	英語コミュニケーションⅠ	2	演	2	2	2	2						○	●	●	●	●			檜垣			
	英語コミュニケーションⅡ	2	演	2	2	2	2		2	2										中垣			
	音楽概論	2	講	2	2	2	2						○							河北			
	美術概論	2	講	2	2	2	2						○							武田			
	大学教育基礎演習	2	演	2	2	2	4													佐藤他			
	地域理解	2	講	2	2	2	2													福屋他			
	体育<実技>	1	技	1	1	1	2						●	●	●	●	●			原井			
	体育<講義>	1	講	1	1	1	1						●	●	●	●	●			原井			
	データ科学のための基礎数学入門	2	講	2	2	2	2													関口			
	データ科学のための基礎数学	2	講	2	2		2	2												柳原【連携】			
	データ科学と社会Ⅰ	1	講	*2	1	*2	1	1						○	○	○	○			木下【連携】			
	データ科学と社会Ⅱ	1	講	*2	1	*2	1	1						○	○	○	○			木下【連携】			
	統計学概論	2	講	2	2			2	2												杉野【連携】		
	人工知能概論	2	講	2	2				2	2											栗原【連携】		
	知的財産入門	1	講	1	1	1	1														陳内【連携】		
	専門科目	教育原論	2	講	2	2	2	2					●	●	●	●	●			川野			
教職概論		2	講	2	2	2		2	2				●	●	●	●			佐々木(司)				
教育制度論		2	講	2	2					2	2			●	●	●	●		川野				
教育心理学		2	講	2	2		2	2						●	●	●	●		大田・田邊				
特別支援教育概論		1	講	1	1	1	1							●	●	●	●		河村				
教育課程論		2	講	2	2			2	2					●	●	●	●		松村				
道徳教育の指導法		2	講	2	2		2	2						●	●	○			川野				
総合的な学習の時間の指導法		1	講	1	1		1	1						●	●	●	●		藤上【集中】				
特別活動の指導法		2	講	2	2					2	2			○	●	●	●		森				
教育方法論		2	講	2	2		2	2						●	●	●	●		森				
ICTを活用した教育の理論と方法		2	演	2	2		2	2						●	●	●	●		南野・長				
生徒・進路指導論		2	講	2	2					2	2				●	●	●	●		森			
教育相談		2	講	2	2							2	2		●	●	●	●		森			
国語(書写を含む)		2	講	2			2	2							●					上田			
社会		2	講	2						2	2				○					川野			
算数		2	講	2			2	2							○					中村			
理科		2	講	2				2	2						○					開地・山田			
生活		2	講	2			2	2							○	○				岡崎			
初等音楽		2	演	2			2	2							○					坂本・本廣・竹田			
図画工作		2	演	2			2	2							○					武田			
家庭		2	講	2					2	2					○					森永			
初等体育		2	演	2			2	2							○					松嶋			
初等英語		2	講	2	2										○					渡部・二五			
国語科教育法		2	講	2			2	2							●					廣口			
社会科教育法		2	講	2						2	2				●					河合			
算数科教育法		2	講	2			2	2							●					中村			
理科教育法		2	講	2					2	2					●					開地・山田			
生活科教育法		2	講	2			2	2							●					岡崎			
音楽科教育法		2	講	2				2	2						●					竹田			
図画工作科教育法		2	講	2					2	2					●					小野(素)			
家庭科教育法		2	講	2					2	2					●					西【集中】			
体育科教育法		2	講	2				2	2						●					松嶋			
英語科教育法(小・中)		2	講	2	2			2	2						●	●	○			二五・パーキン・渡部			
英語学概論		2	講		2		2	2							●	●				西田【集中】			
英語史		2	講		2					2	2				○	○				松浦【集中】			
英文法演習		2	演		2			2	2						○	○				高橋			
英語音声学		2	講	2	2		2	2							○	○	○			尊田			
第二言語習得論		2	講	2	2		2	2							○	○	○			檜垣・二五			
英語文学概論		2	講	2	2		2	2							○	●	●			藤本			
Creative English I		2	演	2	2		2	2							○	●	●			パーキン			
Creative English II	2	演		2		2	2							○	○				パーキン				
Applied English I	2	演		2			2	2						○	○				パーキン				
Applied English II	2	演		2				2	2					○	○				パーキン				
Basic English Expression	2	演		2			2	2						○	○				二五				
Intermediate English Expression	2	演		2				2	2					○	○				二五				
Upper-Intermediate English Expression	2	演		2					2	2				○	○				パーキン				
Advanced English Expression	2	演		2						2	2			○	○				パーキン				
異文化理解	2	講	2	2			2	2						○	●	●			永井				
英語科教育法Ⅰ	2	講		2			2	2						●	●				二五				
英語科教育法Ⅱ	2	講		2					2	2				●	●				渡部				
英語科教育法Ⅲ	2	講		2						2	2			●	○				渡部				

教育学部教育学科(R6年度)		単位数	形態	卒業要件		開講期及び時間数												資格等取得要件 【●必修○選択】					担当教員
科目区分	授業科目の名称			必修	選択	1年		2年		3年		4年		保育士	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援	SPARC			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期								前期	後期	
子ども学	子ども表現実践演習	1	演	1	1															川野・大田・森・山本・河村			
	子ども実地研究Ⅰ	1	演	※3	1	※3	1			1	2									川野・大田・森・山本(幸)			
	子ども実地研究Ⅱ	1	演	※3	1	※3	1			1	2									二五			
	子どもと英語	2	講	2	2	2	2			2	2									森			
	子どもと教育	2	演	2	2	2	2			2	2									大田			
	子どもの遊びと心理	2	演	2	2	2	2							○	○					佐藤			
	子どもと福祉	2	演	2	2	2	2							○	○					高下・松村・河村・船場			
グローバル学	地域課題解決演習(PBL)Ⅰ	1	演	※4	1	※4	1			1	2									高下・松村・河村・船場			
	地域課題解決演習(PBL)Ⅱ	1	演	※4	1	※4	1			1	2									高下・松村・河村・船場			
	Global English	2	講	2	2	2	2			2	2									尊田			
DXによる地域課題解決	国際論	2	演	2	2	2	2			2	2									●芹澤			
	DX概論	2	講	2	2	2	2			2	2									●湯浅【連携】			
	地域学	2	講	2	2	2	2			2	2									●岩野他【連携】			
専門科目	教育実習	DXによる地域課題解決	2	演	2	2	2	2			2	2									●星野・松村・河村		
		DXによる地域課題解決(PBL)Ⅰ	2	演	2	2	2	2			2	2									●船場【共同】		
		DXによる地域課題解決(PBL)Ⅱ	2	演	2	2	2	2			2	2									●船場【共同】		
		教育実習指導(幼・小)	1	演	1	1	1	1			†	1	2			●	○						
		教育実習(幼・小)Ⅰ	2	実	2	2	2	2					*	2	*			●	○				
		教育実習(幼・小)Ⅱ	2	実	2	2	2	2					*	2	*			●	○				
		教育実習指導(小・中)	1	演	1	1	1	1			†	1	2			○	○						
		教育実習(小・中)Ⅰ	2	実	2	2	2	2					*	2	*			○	○				
		教育実習(小・中)Ⅱ	2	実	2	2	2	2					*	2	*			○	○				
		教育実習指導(中・高)	1	演	1	1	1	1			†	1	2			○	○						
教育実習(中・高)Ⅰ	2	実	2	2	2	2					*	2	*			○	○						
教育実習(中・高)Ⅱ	2	実	2	2	2	2					*	2	*			○	○						
特別支援教育実習指導	1	演	1	1	1	1					†	1	2							●			
特別支援教育実習	2	実	2	2	2	2					*	2	*							●			
保育実習	保育実習指導Ⅰ	2	演	2	2	2	2			2	2			●									
	保育実習Ⅰ	4	実	4	4	4	4			*	*	4			○								
	保育実習指導Ⅱ	1	演	1	1	1	1			†	1	2			○								
	保育実習Ⅱ	2	実	2	2	2	2					*	2				○						
	保育実習指導Ⅲ	1	演	1	1	1	1			†	1	2			○								
保育実習Ⅲ	2	実	2	2	2	2					*	2				○							
実践演習	教職実践演習	2	演	2	2	2	2							○	●	●	●			川野・二五・森・山本・河村・吉鶴・渡部			
	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	演	2	2	2	2							●	○					松村・佐藤・大田・村中			
ゼミナール	卒業研究	4	演	4	4	4	4													松田他			

- 注1. 形態欄の「講」は講義、「演」は演習、「技」は実技、「実」は実習を表す。
- 注2. 卒業要件の※1と※2及び※3と※4は選択必修で、それぞれ、いずれかを履修する必要がある。詳細は、次ページを確認すること。
- 注3. 時間数を分割して表示しにくい科目は、†を用いて実施時期を示し、時間数は†の期を含む後の期に示す。
- 注4. 実習系科目の*は実習時期を表す。単位修得時期は*の期を含む後の期に示す。
- 注5. 資格等取得要件の欄は、●は必修、○は選択必修を表す。
- 注6. 資格等の欄の「保育士」は「保育士資格」、「幼稚園」は「幼稚園教諭一種免許状」、「小学校」は「小学校教諭一種免許状」、「中学校」は「中学校教諭一種免許状(英語)」、「高等学校」は「高等学校教諭一種免許状(英語)」、「特別支援」は「特別支援学校教諭一種免許状」を表す。また「SPARC」は「SPARC教育プログラム」を表す。
- 注7. 担当教員欄の【集中】は一部または全部を集中講義で行うことを、【連携】は他大学との連携開設科目であることを、【共同】は他大学との共同開設科目であることを示す。
- 注8. SPARC教育プログラム登録者以外は、原則として連携開設科目及び共同開設科目を履修できないものとする。ただし、1年前期に開講する連携開設科目については、履修人数の制限なく履修可能とする。
- 注9. 諸事情により担当教員が変更になることがある。また、受講者が一定数に達しない授業科目は、不開講になることがある。

山口学芸大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会規程

(設置)

第1条 山口学芸大学（以下「本学」という。）に、本学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「プログラム」という。）にかかる教育の推進、改善及び充実を図るため、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) プログラムの認定申請及びそれに関わる調査・研究に関する事項
- (2) プログラムの対象となる科目の授業の運営に関する事項
- (3) プログラムに係る学生の履修状況及び学修成果に関する事項
- (4) プログラムの自己点検・評価に関する事項
- (5) その他委員会が必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学生部長
- (2) 学部長または学科主任
- (3) 学生部次長
- (4) 教務課長
- (5) その他学長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 第3条第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学生部長とする。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長により指名された者が代理する。
- 4 委員長は必要に応じ、委員以外の関係者に会議への出席を求めることができる。

(事務所管)

第6条 委員会の事務は、教務課が所管する。

- 2 委員会事務所管部署は、議事録を作成し、保管しなければならない。

(ワーキンググループ)

第7条 委員会に、プログラムに関する課題や改善策等を検討するため、学長が指名する者をワーキンググループ長とし、当該ワーキンググループ長が指名する職員等により構成するワーキンググループを置くことができる。

附 則

この規程は、令和6年9月13日より施行する。

山口学芸大学数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会規程

(設置)

第1条 山口学芸大学（以下「本学」という。）に、本学における数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（以下「プログラム」という。）にかかる教育の推進、改善及び充実を図るため、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) プログラムの認定申請及びそれに関わる調査・研究に関する事項
- (2) プログラムの対象となる科目の授業の運営に関する事項
- (3) プログラムに係る学生の履修状況及び学修成果に関する事項
- (4) プログラムの自己点検・評価に関する事項
- (5) その他委員会が必要と認める事項

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学生部長
- (2) 学部長または学科主任
- (3) 学生部次長
- (4) 教務課長
- (5) その他学長が必要と認める者

(委員の任期)

第4条 第3条第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、学生部長とする。

- 2 委員長は、会議を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長により指名された者が代理する。
- 4 委員長は必要に応じ、委員以外の関係者に会議への出席を求めることができる。

(事務所管)

第6条 委員会の事務は、教務課が所管する。

- 2 委員会事務所管部署は、議事録を作成し、保管しなければならない。

(ワーキンググループ)

第7条 委員会に、プログラムに関する課題や改善策等を検討するため、学長が指名する者をワーキンググループ長とし、当該ワーキンググループ長が指名する職員等により構成するワーキンググループを置くことができる。

附 則

この規程は、令和6年9月13日より施行する。

大学等名	山口学芸大学
教育プログラム名	データ科学と社会

申請レベル	リテラシーレベル
申請年度	令和7年度

取組概要

取組概要

山口学芸大学

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム『データ科学と社会』

プログラムの目的

超スマート社会(Society5.0)の到来に備え、加速度的に進展する高度情報化社会において地域社会の発展に寄与する人材を育てる

身に付けられる能力

- ①データサイエンス・AIの概要とそれを学ぶ意義について理解し、説明できる。
- ②データサイエンス・AIの基礎となるデータリテラシーを身に付ける。
- ③データ・AIの利活用において留意すべきことを理解し、実践できる。
- ④データサイエンス・AIの応用に関する技術や最新動向について学び、説明できる。

プログラムを構成する科目

- ①データ科学と社会Ⅰ…データサイエンス・AIの概要とそれを学ぶ意義及びデータリテラシー
- ②データ科学と社会Ⅱ…データ科学と社会Ⅰの内容を踏まえてデータ・AIの利活用における留意点と最新動向

プログラムの修了要件

「データ科学と社会Ⅰ(1単位)」及び「データ科学と社会Ⅱ(1単位)」の修得

プログラムの実施体制

「山口学芸大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会」が授業の運営、学生の履修状況、学修成果、プログラムの自己点検・評価を行う